

ひとが育つコドモジカン

新たな人材発掘と巻き込み

コミュニティの絆を深めることを目的とした地域行事は、どの地区でも既にいくつも取り組まれています。それと何が違うのかと言われると、そんなには違わないのかもしれませんが、ただ、コドモジカンとは新たな人材の発掘・巻き込みが得意です。その大きな理由は、活動の求心力が子どもだからと言えます。地域活動に不慣れな子育て世代であっても、自分の子どもが参加する活動であれば関わりが持ちやすいものです。この世代は必ずしも地域づくりに関心がないわけではなく、活動にかかわるきっかけがないだけの可能性も大きいのです。

コドモジカンは、自由で柔軟な運営ができるため、若い世代が地域づくりに参画するはじめての一步に最適です。このような参加・参画しやすい活動で地域活動の裾野を広げることが、人材の掘り出しにつながります。

コドモジカンからはじまる地域づくり

コドモジカンプロジェクトは、仲間づくりに始まり、次に、地域子ども達に経験させたいことを手持ちの地域資源（人材・文化・自然）を元にプログラムを組み立てていくのですが、これは自分たちの住まう地域を知る作業そのものです。この過程には副産物がつきもので、住民同士がつながり、地域子どもや地域資源の活用について対話を深めると、不思議と決まって地域の困りごとにまで話がおよぶようになります。「子どものため」というような共通するテーマでの結びつきは、課題や活動の意義を共有しやすく、自発的な協力関係を築きやすいものです。このつながりができれば、コドモジカンはその瞬間から地域課題解決のツールとなり、地域の実情に応じた具体的な活動に発展していくでしょう。「子どものため」を目的に集まった住民が、そのまま「地域のため」に動き始めるには、やはり継続は必須です。

中学生のボランティア参加

夏休みとはいえ、勉強、部活動に忙しい中、のべ24名の中学生がボランティアとして参加してくれました。中学生の参加は、活気や賑わいをもたらすことは言うまでもありませんが、小学生にとってはリーダー的な存在であり、自発的に運営の手伝いや子ども達の見守りをする頼もしい姿が見られました。中には、数日参加してくれる子、工作教室の講師をする子、昨年小学生で参加し中学生ボランティアとして戻ってきてくれた子もいました。

地域活動への参加率が低いと言われる中学生が、地域の一員としての役割を担う場として定着することが期待されます。



小学生への教え方を工夫しました。

黄色いベストが中学生。カレー作りをリード

コドモジカン成功の

3つの秘策

1. ワクワクできる企画づくり

大人も一緒に楽しめるものを！

2. 協力者を増やす

少ない人数で頑張るより、人を巻き込んで一人の負担を減らそう！

3. 次につながるしなやかさを意識

参加者の感想や達成感を共有しよう！うちあげもあり。

【編集・発行】

山口市市民活動支援センター さぽらんて



さぽらんては、NPO法人山口せわやきネットワークが山口市より委託を受けて運営しています。誰もが自分らしく安心して暮らせるやまぐちを目指して「今私たちにできる事は何か」を考える市民の一步を応援します。

【住所】〒753-0047 山口市道場門前 1-2-19

【TEL】083-901-1166

【FAX】083-901-1165

【メール】saporant@c-able.ne.jp

【HP】<https://www.saporant.jp/>

【開館時間】9:30～18:00

【休館日】水曜日、12月29日～翌1月3日



公民館が教室に。近所の大人が先生に。人が集う夏休み。

さぽらんて
かわら版
平成30年1月発行

コドモジカンプロジェクト 2017夏 in 大内

コドモジカンプロジェクトが目指すこと

コドモジカンプロジェクト（以下、コドモジカン）は、自治会単位での子どもの見守り、居場所、学び・体験の場づくりで、住民同士のつながりで地域子どもを育む取り組みです。子どもや保護者をその日限りの参加者ではなく「地域づくりの当事者」にするために、そして住民同士の絆を深めるために、自治会単位で取り組むことを大切にしています。

ぼくのため、私のため、うちの子のために向けられるあたたかなまなざしを感じられる。やってみたいを共に叶える仲間ができる。子どもの笑い声が聞こえる。活躍の場・出番がある。困った時に近くに支え合える人がいる。コドモジカンは、自分が住んでいる地域でそう感じられる、そんな地域づくりを目指しています。

Report 1

新規参加 4 地区（7 日間参加者のべ 240 名）
～新たなチャレンジのはじまり～

子どもに色んな体験をさせたい、地域の人と交流したいと考
える子育て世代が中心となりました。

中村地区

【1 日間】7 月 21 日（月）

子ども会役員が中心で運営

開催当日は、同地区在住の子ども会連絡協議会会長の他、お父さんも参
加し、暑さ対策にとかき氷がふるまわれました。

【プログラム】 そうめん流し／竹細工／絵画教室

【参加者】 39 名
子ども 21 名／スタッフ 4 名／中学生ボランティア 3 名／保護者 7 名／講師 4 名

小京都地区

【2 日間】7 月 28 日（金）・8 月 5 日（土）

子ども会役員が中心で運営

学年別のプログラムを組みました。高学年向けには、企業の若手スタッ
フによるプログラミング教室。中学生、保護者も講師になりました。

【プログラム】 絵画教室／ロボットプログラミング／レジンアクセサリ／紙ゴマ工作

【参加者】 60 名
子どものべ 38 名／スタッフ 3 名／中・大学生ボラ 4 名／保護者 6 名／講師 9 名

金成団地地区

【1 日間】8 月 21 日（月）

子ども会が中心で運営、自治会調理班が協力

子どもと同数の大人が集まり、たくさんの見守りの中で安全に竹細工教
室が行なわれました。子どもたちが大人の分の箸・器を作りました。

【プログラム】 そうめん流し／竹細工／プラバン

【参加者】 54 名
子ども 20 名／スタッフ 21 名／中学生ボランティア 3 名／講師 10 名

みほり（御堀×御堀団地）地区

【3 日間】8 月 3 日（木）・7 日（月）・25 日（金）

2 地区合同開催。巻き込み型で大勢の有志による運営

得意なことやできる範囲での参加で有志を募りました。講師も
全て地元調達。お寺や語り部の協力も多世代交流に役。

【プログラム】 宿題教室／選べるものづくり教室／御堀の歴史
を学ぼう／乗福寺座談会／紙芝居／レクリエーション

【参加者】 87 名
子どものべ 51 名／スタッフ 34 名／中学生ボランティア 2 名

夏は大内がぶちアツイ！！

大内 ゴドモ

ジカン 特集

昨年度より、モデル地区として 3 地
区でスタート。2 年目となる今年は
6 地区で 13 日間開催され、**458 名**
が参加しました。大内まちづくり協
議会推奨事業として補助金が交付
され、新たな自治会活動の一環とし
て広がりはじめています。

Report 2

2 年目 2 地区（6 日間参加者のべ 218 名）
～継続と発展～

子どもも大人もリピーターが多く、今年は何をしようかとワ
クワクする余裕が見えました。

氷上地区

【3 日間】8 月 1 日（火）・2 日（水）・3 日（木）

既存の寺子屋事業と自治会、有志で運営

3 日間の連続プログラムということもあり大人と子どもの距離がぐっと
縮まりました。未就園児同伴の保護者の参加・協力もありました。

【プログラム】 宿題教室／ピニャータづくり／カレー調理／ピニャータ割り

【参加者】 100 名
子どものべ 79 名／スタッフ 6 名／中学生ボランティア 8 名／保護者 7 名

小野地区

【3 日間】7 月 28 日（金）・8 月 9 日（水）・10 日（木）

自治会+コドモジカンリーダーで運営、子ども会が協力

子どものリクエストをプログラムに採用。防災教育も取り入
れ充実のプログラム内容。

【プログラム】 宿題教室／けん玉／動物クイズとドッグフ
リスビー／釣り／工作／防災クッキング／自由研究

【参加者】 118 名
子どものべ 74 名／スタッフ 5 名／大人ボランティア 17 名／
中・高・大学生ボランティア 8 名／講師 14 名

Topic 地域×NPO



【協力団体・企業】

さばらんで登録団体(竹林ボランティア山口／アトリエ Deko／山口災害救援／りす会山口／よつばの会(Happy Tail 応援団)／マザーズスマイル山口／地域活動
おたすけターミナルメディエーター)／山口市教育支援ネットワーク「やまぐち路傍塾」／株式会社 NF デバイス／山口市立大内中学校／山口市立大内南小学校

子ども向け防災プログラムで地域課題に取り組む

災害が起こる度に、地域防災力を向上させる必要性が改めて言われ、自主防災組
織をおく地区は多いですが、それだけでは防災の体制が整っているとは言えませ
ん。住民一人ひとりの防災意識を高め「自らの命・安全を守る＝自助」「地域の助
け合い＝共助」を備えることが重要で、その意識づけは地域の課題でもあります。
そこで小野地区では、コドモジカンを通してこの課題に取り組むことに。地域防
災のエキスパートである NPO を企画会議に迎え、小野の地形から想定される災害
や過去の被害を基に、子ども向けプログラムを企画。持ち寄り・支え合いの視点
を取り入れた防災クッキング、簡易雨具づくりの他、自治会長による防災授業が
実施され、避難ルートの確認や日頃の備えに加え、共助の重要性を子どもたちと
ともに学びました。

Voice

参加者の声から

コドモジカンをふり返る

子ども達が、豊かな子ども時代を地域で過ごすことがで
きるように、まわりの大人たちがどう関わり、どんな環
境が必要かを話し合う。それだけでもは成功だと思うの
ですが、それを継続するためには、ふり返りや見直しを
丁寧に行うことが大事です。そこで、チェックシートや
ウェブアンケートで子ども、保護者向けにアンケート調
査を行い、後日それを元に、地区ごとの運営スタッフふ
り返り会を行いました。

子どもの声

楽しかったと答えた子が 9 割。
その理由は以下の通り（複数回答）

友だちと過ごせた・・・110 名

はじめてのことに挑戦できた・・・93 名

場所が近くてすぐ来れた・・・80 名

たくさん笑った・・・76 名

宿題ができた・・・74 名

新しい発見があった・・・70 名

知っている大人がいた・・・68 名

新しい友達ができた・・・45 名

大人や中学生と遊べた・・・44 名

特別なことをしな
くても、友達と過
せるだけで子ども
は嬉しいんだね！



3・4 年生の参加が多く見
られたのは、学童待機問題とも
関係ありそう。長期休みの預
け先や過ごし方に不安を感じ
る保護者も多いのよね。

学年別参加割合

1 年生 7 %

2 年生 18 %

3 年生 20 %

4 年生 22 %

5 年生 16 %

6 年生 15 %

幼児 2 %

「帰宅後、子どもがコドモジカンの話をした」との
回答がなんと 100%。親子のコミュニケーションに
も役。運営への参加については「積極的に手伝
ってもよい」31%、「出来る範囲で／いずれ」と
条件付きながら手伝いが可能との回答と合わせ
ると実に **82%の保護者が潜在的な担い手**である
ことが予想される結果に。

子どもを預けた保護者の声

勉強・遊びとメリハリを持って過ごせた／地域の人との
関わりを持たせたいと思っていた／子ども会がないの
で地域活動のきっかけが欲しかった／中学生と関われ
る機会はなかなかない／帰宅後、子どもが嬉しそうに話
をしてくれた／家庭ではできない体験ができた 他

運営スタッフの声

知り合いが増えた／子どもがあいさつしてくれるよう
になった／世代の異なる人と共通の話題ができた／付添い
で来たお母さんが手伝ってくれた／何しようかとみんな
で考えるのが楽しい／預けてくれたお母さんにありが
うと言われた／子どもと一緒に楽しんだ 他